

ハウスを利用して大平莢インゲンの抑制栽培に取り組むご夫婦を尋ねました。

シュガグリーン インゲン (WN-PB966)



「シュガグリーン」の収穫作業に励む田中幸喜様、チズ子様ご夫妻

大平莢インゲン栽培を始めたきっかけ

「それまでは、ソラマメの栽培をやっていたんだけど、いつも2月まで収穫がずれ込んでしまい、後作のトマト、カボチャの作業が間に合わなくてね、悩んでいたんだ。そんな時、営農指導員から大平莢インゲンの話を聞いて、遅くとも12月までには収穫が終わると教わったから、迷わず『やるよ!』と手を挙げたんだ。」

7年前から大平莢インゲン栽培をスタート

「始めた頃は他社の品種を使っていたけれど、3年前にこの『シュガグリーン』の試作をしたときに、収量性が高い点と、莢の曲がり少なくて秀品率が高い点でこの品種に替えようと決めたんだ。」

田中様は、2009年秋も引き続き「シュガグリーン」の作付けを予定しています。

遊休ハウスを利用して「シュガグリーン」の栽培を始めませんか？

田中様のように、ハウスを利用した「シュガグリーン」の作付に取り組む生産者が増えています。いま使われずに空いているハウスを有効利用するなら、春蒔きと秋の抑制栽培が可能な「シュガグリーン」の利用がおすすめです!

「シュガグリーン」なら①丸莢インゲンとの差別化が容易(しかも美味!), ②丸莢と比べ出荷調整作業にかかる負担を大幅に軽減できる, ③単位面積当たりの上物率が高い, ④今後、青果物需要の伸びが大いに期待できる、など多くの利点があります。この秋、「シュガグリーン」栽培を始めてみませんか？



シュガグリーンの栽培風景
8月10日播種、10月15日撮影(鹿児島県出水市)



出荷用2kg箱に入った「シュガグリーン」。
上物率が高く、生産者の評価が高い。